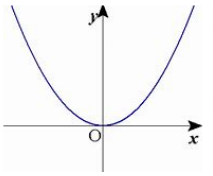
校長だより⑱

　久しぶりに、本校の授業の様子をお伝えする「授業だより」です。今年度の授業改善の取組のテーマは、**「主体的で深い学びのための言語活動」**です。最初から最後まで先生の一方的講義ではなく、生徒達が深く考え、ともに学びあい、学んだことを表現する言語活動を取り入れ、主体的で対話的な深い学びのある授業を目指しています。



授業だより（9）300926　廣瀬先生の数学Ⅰ「二次関数の最大最小」　１年D組

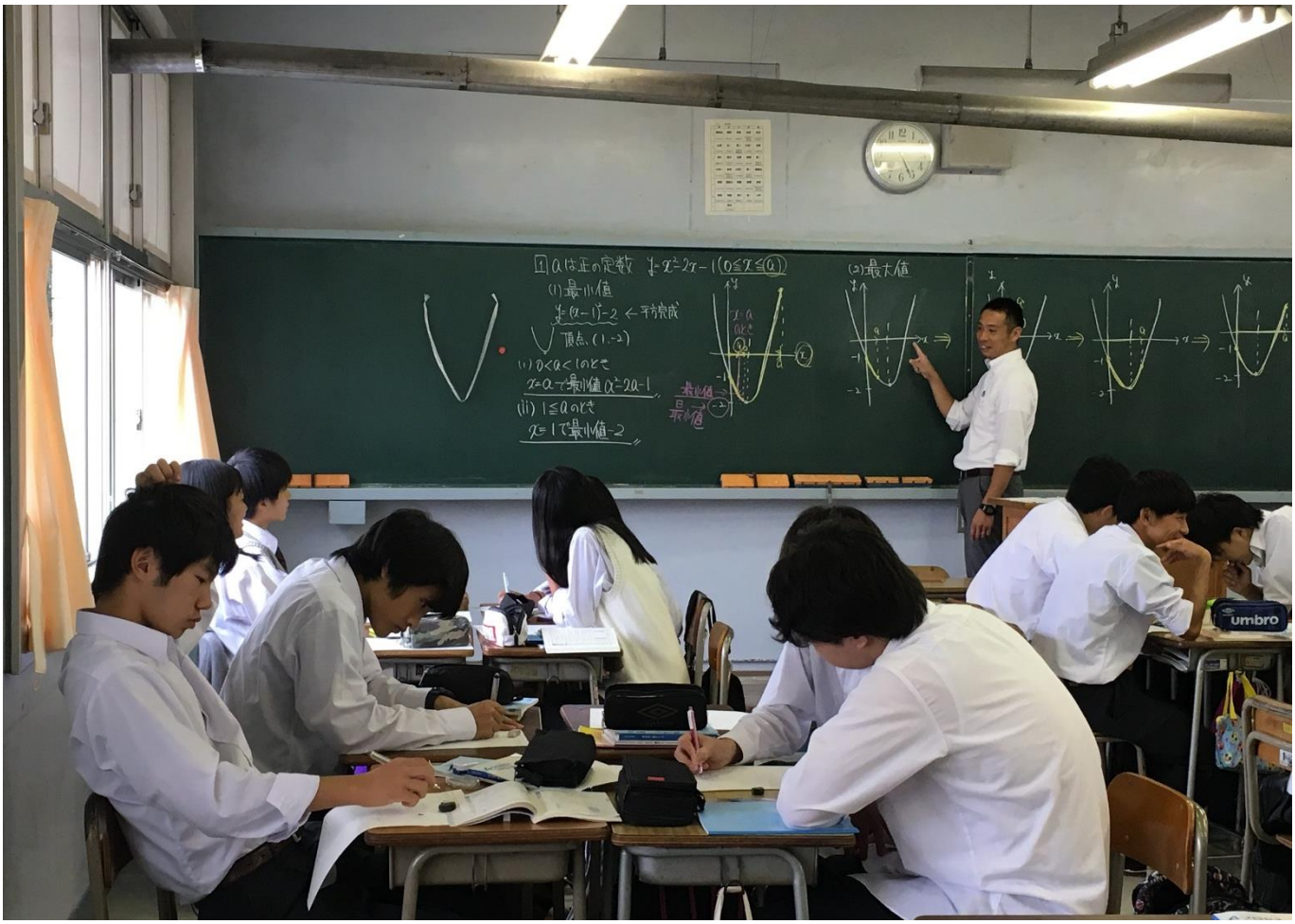
　廣瀬先生は本校３年目の中堅の先生で、生徒支援グループのサブリーダーをされています。２年生の担任、男子サッカー部の顧問です。今回は<u>１年生の「習熟度別小集団」23 名での授業</u>を拝見しました。

　みなさん、数学は得意ですか？　本校では**１年生の国語・英語・数学で小集団授業**を実施しており、これにより思考や表現の土台となる主要３科目の基礎学力をしっかり定着させたいと考えています。「解らない、面白くない、やる気でない…。」これが生徒の皆さんの正直な心情ではないでしょうか？　一年生の数学Ⅰで、ひとりも数学嫌いになってほしくない。全生徒に解る喜びを知って、数学Ⅱに進んでいってほしい！　そして、未来のキャリアの可能性を大きく広げてほしい、それが私たち教員の願いです。

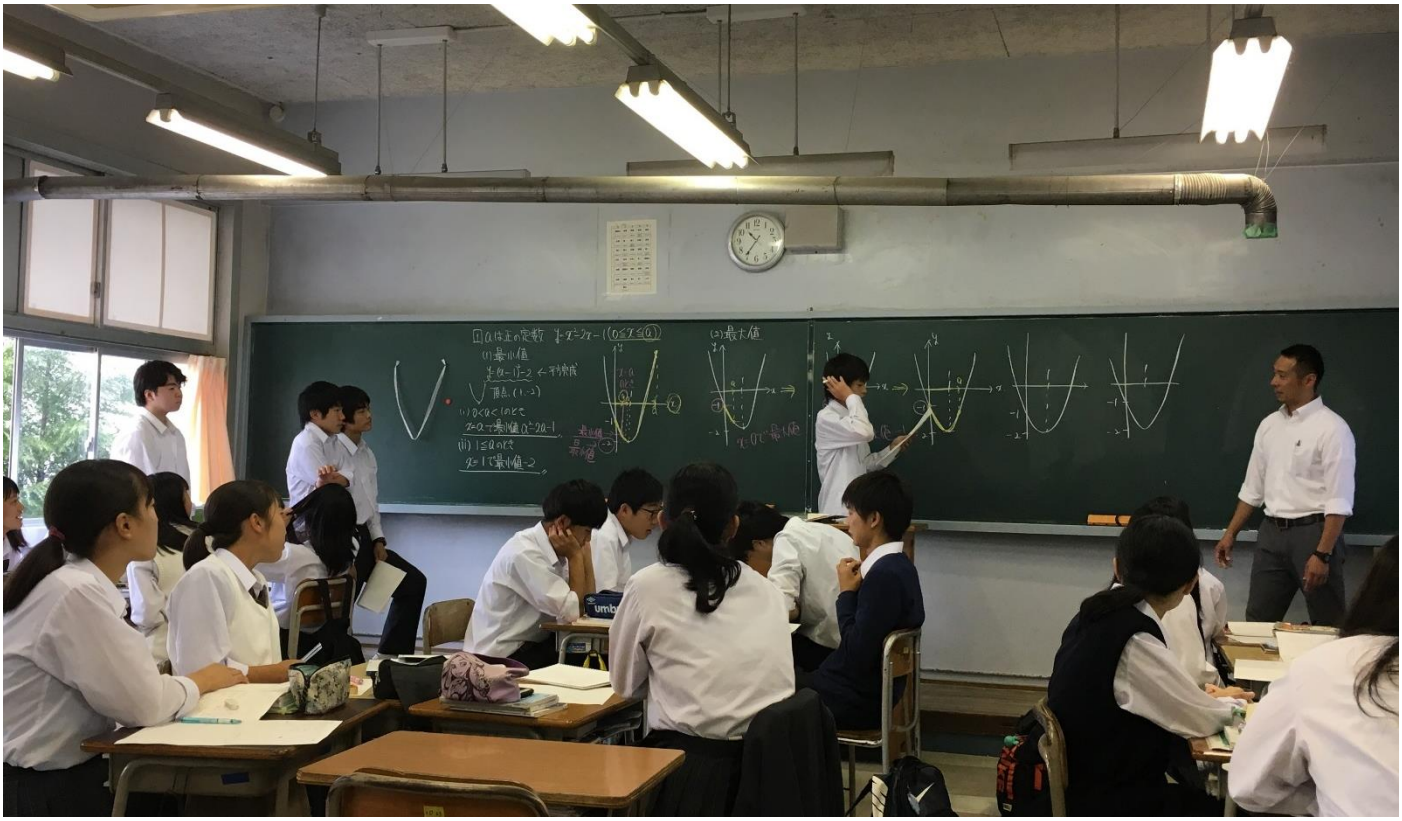
　授業は、3～4 人の生徒からなる６つのグループに分かれて行われました。「先生方も厚木東で挑戦！」の呼びかけに応えて、廣瀬先生も本年度から<u>グループ学習</u>を取り入れています。

　二次関数の最大値、最小値を求める問題です。まず、自分で解いて、続いてグループで協

議しながら４人で考えます。先生は机間を巡視し、必要なら補足説明をします。



　解らない時、友達に気軽に聞ける雰囲気があり、また自分の言葉で仲間に説明することで、自身の理解も更に深まります。



最後に、代表グループの生徒４人が前に出て、黒板を使って自分たちの考えを説明して、

答えあわせを行いました。定義域が移動することで最大値・最小値が変化する２次関数の単元の中では最も難しい問題です。しかし、前に出た生徒はきちんと場合わけをして、グラフを的確に活用して解説していきます。何度か、説明のし方で悩むところがありましたが、一生懸命自分の考えを皆に伝えていました。皆も真剣に聴いて、自分の考えと合わせながら一緒に考え、見事な言語活動が展開され、深い学びにつながっていました。

６つの班に、今日の授業は「スッキリしましたか？」と尋ねたところ、３つの班は「YES スッキリしている！」と答えてくれました。半分スッキリしない原因は何でしょう？ 正しい答にはたどり着いているけれども、プリントの書き方などから、その意味がわかっていないと思われる班が１つありました。問題は解けた、やり方は分かったけれど、言葉での説明はうまくできないという班もいくつかありました。

生徒の「全員スッキリ」を達成するのは本当に難しいなと思いました。でも、この授業には眠そうな生徒はいなかったし、わからない生徒もあきらめないで一生懸命考えていました。それが素晴らしいと思いました。Keep Going!